

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月18日

【評価実施概要】

事業所番号	2173100427		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム可児		
所在地	可児市菅刈1389-1 (電話) 0574-69-1340		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月6日	評価確定日	平成19年7月17日

【情報提供票より】 (平成19年 5月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤17人, 非常勤10人, 常勤換算23人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1 ～ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	99,840 円	その他の経費(月額)	38,400～ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月6日 現在)

利用者人数	27 名	男性 2 名	25 名
要介護1	5 名	要介護2	13 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 87 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院 のぞみの丘ホスピタル
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢化を迎えている大規模団地が隣接している。グループホーム3ユニットを中心に、デイサービス・ショートステイ・訪問介護・居宅支援・訪問入浴事業があり、総合福祉施設として、その有機的な機能を最大限に地域に提供している。申し分のない最新の設備と、法人が持つレベルの高い標準化された運営方針や職員教育体制のもとで質の高いケアが実践されている。施設運営管理者は、地域密着型サービスの位置づけを明確にし、家族を始め、地域住民、学校、自治会、機関、施設やサークル団体等との関係づくりと連携に取り組み、着実な成果を上げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善事項は、ほぼ改善されており、独自理念の再構築、地域との交流への取り組みも、大幅に改善され、更なる向上に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価過程で、職員の気づきや本来あるべき姿の指標が確認され、外部評価の結果と共に、内部会議をもち、意見の合意を得て改善につなげている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議が定期的に行われ、情報交換や参加者相互の触れ合い、理解を深める場となっている。また、討議された内容は、事業運営に積極的に反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月、利用者の暮らしの様子や運営上の様子を便りで報告し、意見や問い合わせについては相談窓口を設置し、利用方法についても繰り返し伝えている。苦情には迅速に対応する仕組みを整えている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域住民の職員への採用、幼稚園、小中学校の子供たちを介在した地域へのアプローチ、ボランティア、サークル団体、各種イベントへの参加やグループホーム焼肉パーティへの招待など、多彩な連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を転換し、地域密着型サービスとしての位置づけを明確にした新たな7カ条の理念を、利用者にも協力を得ながらつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修や法人内ブロック研修の中で、理念の周知、共有を図っている。また、日常の場面でも実践に活かすように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する団地住民との交流の輪が年々広がっている。地域の各種イベントや中学校の運動会・演奏会等、積極的に参加している。また、住民には特技を持った人も多く、ボランティアで頻繁に来てもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を十分理解し、法人内の向上委員会やエリア会議の議題として具体的な改善に取り組んでいる。また、自主的・恒常的にレベルアップに向けた熱意も伺えた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業運営実施状況を報告し、協力的で理解者でもある地域代表や民生委員からは、多様な意見を聴きながらサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は地域のケアマネジャー会議の運営委員をつとめており、市との情報交換の機会も多く、助言ももらっている。また、市が派遣する介護相談員を受け入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らし振り、健康状態を毎月書面で報告している。急を要するものは電話で連絡するようになっている。金銭管理の内容は、家族会の機会に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時には意見を引き出しやすいように、環境づくりに努めている。本音を言いにくい家族もいると思われるため、無記名アンケートによる方法も試みている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人規模が大きいため、人事異動が行われているが、利用者へのダメージを少なくするために、新任職員には、管理者からの個別指導が徹底されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に、新人・中堅・管理者・リーダー研修が体系化されている。また、可児ブロック独自の研修会も2ヶ月に1回実施されている。外部研修にも積極的に参加し、法人全体のレベルを高めている。		法人内には、講師クラスの専門家が多数存在し、内部研修が充実している。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との実践的な交流は行われていないが、法人内7ユニットのグループホームとは、職員交換研修の機会を設け、相互に学びあっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人から話を十分に聞くことから始まり、本人、家族が入所体験ができ、体験を経て入所につなげる仕組みができている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の場合では、出来具合や味加減などを教えてもらいながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の行動、言葉や表情から思いや意向を把握している。困難な場合は家族と相談しながら介護計画にも反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員全員が意見を出し合い、本人・家族とも相談しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、また、必要に応じ随時見直しが行われている。その場合は、本人・家族とも話し合い、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	総合的な居宅介護法人としての豊富な機能を積極的に、本人・家族、地域住民に提供している。また、認知症介護相談、医療相談等の電話相談に応じたり、仲介するなどの取り組みも行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態を家族に説明し、かかりつけ医への受診を、職員が付き添いながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人は、終末期に対応しない方針であり、一定の段階から、病院医療に委ねていて、家族にも理解を得ている。医師との緊密な連携や救急車の搬送手順など共有している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳やプライバシーは、ケアの重要な位置づけとして、学習会や日頃の職場内研修の中で徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の都合を優先し個別に対応している。朝の身だしなみや化粧なども、本人のペースに添って支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好をよく把握し、食べたいものを聞きながらメニューに採り入れている。季節感のある「ほう葉ずしやちらしずし」など華やかな献立と、食後に添える果物が、楽しい食事を演出している。		食事メニューは、3ユニットそれぞれ特色を出すことで、趣向を凝らしている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望及び体調にあわせ週3～6回提供している。お風呂嫌いの人には、職員の手順な誘導と、タイミングによって、入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のこれまで培った特技や趣味を活かせるように支援し、また、買い物、散歩などで、日常的に外にでる機会を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、イベント参加等、外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、ロックは解除されている。職員は、鍵を掛けることの弊害を十分に理解している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下で訓練が実施されている。地域住民からの協力体制については今後の課題となっている。	○	地域住民との協力体制については、運営推進会議のテーマとして取り組まれるよう期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量はおおよそ把握している。糖尿の人もいるので、定期的に法人栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	最新構造の建物であり、機能的な広い空間が確保されている。中庭には季節の花や苺を育て食卓に乗せる等、生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた小物類や、写真、花、時計、カレンダーなど、バランスよく配置されて、居心地よい工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。